



聖三木図書館ロゴ

イエズス会のイルマンとして両手を掲げ、人々に教えを説くパウロ三木。見せしめのため、他の殉教者とともに左耳をそがれた。



題字 山本 廣

聖三木図書館友の会会報『ゆるし』創刊第1号

発行日：2010年12月3日

発行者：荒谷 幸二郎 / 編集者：竹内 光 / デザイン：鈴木 博文



ゆるしの原点に
立ち帰るために
イエズス会日本管区管区長
住田 省悟

「(パウロ三木は)高い十字架にかけられても、心を乱さず、目の前で涙を流している養父の愛情に負けることもなく、十字架を祭壇として、命のある限り説教を続けていった。『自分もまた日本人である。死の時に際して真実のことを言うべき者として言う。キリスト者の崇拜する私たちの主キリストの教え以外には、他に救いがないことを悟って欲しい。自分は喜んでその神に命を捧げ、自分の敵や国王、自分の死について責任のある人々をゆるし、その人々が洗礼を受け、そのことを主にお願する。』」

二十六聖人の殉教を直接見聞したフランシスコ会員マルセロ・デ・リバネイラが、マニラに追放後書き記したパウロ三木の最後の説教である。(佐久間正「日本二十六聖人伝記(二)」横浜市立大学論叢人文系列第十一巻第一号(一九五九年)九二―九三頁参照)パウロ三木のこの精神の根底には、イエスのみ心が息づいている。十字架上でイエスが言う。「父よ、彼らをおゆるしくください。自分が何をしているのかわからないのです。」(ルカによる福音書二三章三四節)

どのようにしてパウロ三木は、イエスのみ心に近づいたのだろうか。父三木判大夫や母マリアから伝えられた信仰、有家の修練院での高山右近との出会い、そしてイエズス会での祈りの生活は、イエスのみ心に近づき大きな契機になったに違いない。しかし、安土のセミナリヨや天草のコレジオで学んだことも、イエスのみ心に近づくことを大いに助けたに違いない。聖書を研究すること、書物を通してキリスト教の伝統を受け継ぐこと、現代社会に対する教会の取り組みを知ること、単に知識を増すのみでなく、私たちを真理そのものであるイエスのみ心、そしてイエスの愛の極みであるゆるしの心へと近づけてくれる。

二〇〇七年十二月、上智大学から本会に移管されて、聖三木図書館は新たな門出を祝った。本会が一般に開放した図書館を設置した根本的な理由は、できる限り多くの方がさまざまなキリスト教関係の書籍に親しんで、真理であるイエスのみ心に近づいていただきたいからである。幸いに聖三木図書館友の会の方々と多くの会員の寛大なご支援と職員の方々のご協力を受けて、



緑のまきば
としての発展を
学校法人上智学院理事長
高祖 敏明

この三年間順調に発展することができた。関係する皆様は心から感謝するとともに、今後ともご支援とご協力をたまわることをお願いする次第である。

聖三木図書館には味わい深い歴史と使命がある。その名は、よく知られているとおり聖三木パウロに由来する。彼は巡察師アレックスサンドロ・ヴァリニャーノ神父の方針によって開かれた安土のセミナリヨの第一回生であり、日本でイエズス会に入会した最初の日本人会員のひとりである。

当初から説教師として名をはせていたが、彼の名が歴史に刻まれたのは、その殉教と列聖による。彼は豊臣秀吉が「天下人」であった時代、一五九七年に長崎の西坂で命を捧げた二十六殉教者のひとりであり、十字架での「関白殿を含めたすべての「敵」をゆるし、「洗礼」による救いへの道を説いた」彼の説教と信仰宣言は、まさにキリストにならうものであった。

それから二六五年後、江戸幕府が開国へと舵を切った一八六二年、教皇ピオ九世は日本宣教の再開を望みながら、彼らを「日本二十六人聖人」に上げた。二月五日の彼らの殉教記念日は、ローマ教会の定めでは「聖パウロ三木と同志殉教者の祝日」と呼ばれている。

聖三木図書館は一九四九年に生まれた。聖フランシスコ・ザビエルの来日四百周年にあたったこの年、ザビエルの右腕がローマから「里帰り」して日本各地を巡回した。この巡礼の最後を飾る記念式典は神宮外苑で催され、式後「右腕」は、献堂されたばかりの聖イグナチオ教会に安置された。そして、イエズス会の創立者イグナチオ・ロヨラに捧げられたこの教会に開設された図書室、それが聖三木図書館(当初は聖三木文庫)の誕生であった。

一九五七年に上智会館が落成するとともに文庫もここに移り、二階東側に居を構えた。七十年代半ば会館が上智大学に移管されたとき、文庫も大学の管轄下に入り、以降、文庫から図書館へと「格」を上げながら、その内実を整え発展を遂げていった。

二〇〇七年にイエズス会日本管区のミッションに位

置づけられて現在に至るが、聖三木図書館は、以上の小史からも分るように、三木パウロ個人を超えて、イグナチオ、ザビエル、ヴァリニャーノと続く、キリストに鼓舞されたイエズス会精神を受け継いでいる。ヴァリニャーノは日本で出版事業を始めた人物でもある。これらの歴史を背負う聖三木図書館が、今後ともキリストに養われ、「キリストにならう」道と方向を指し示す「緑のまきば」となることを願うものである。



キリスト教専門図書館
としての役割
— 聖三木図書館 —
上智大学学長
石澤 良昭

私は一九六〇年代から聖三木図書館の常連の一人であった。学生時代から、土曜や日曜も開館しているこの図書館を頻りに利用した。新聞も雑誌もあり、見かけは普通の図書館と変わらないが、そのほかにも、キリスト教精神を基盤にした大作家の小説や豪華なキリスト教関係の美術書が所蔵されており、それらの本のページをめくりながら感動したことを覚えている。当時から聖三木図書館は開架式だった。お目当ての本を直に手にして少し立ち読みしたり、座ってゆっくり読んでいるうちに、何とも言えない充実した居心地の良さを感じたものだった。

聖三木図書館はもともとカトリック麹町教会付属図書室として発足したが、これからは、パブリックな専門図書館としての役割がますます重要となってくるだろう。図書資料を備えたカトリック・センター的な機能を持つと同時に、友の会を通じた交流会の開催も期待したい。

図書館が開かれて五十七年がたつが、教会構成員密着型の専門的図書館というパブリックな側面と、一つの広がりを持つ交流の場として、聖三木図書館が果たす役割は大きい。小さな手づくりの図書館が、大きな夢と信仰の喜びを語る広場になってくれればと願っている。



里帰りしたイエズス会総長

アドルフォ・ニコラス神父は、2008年1月のイエズス会総長選挙で第30代総長に就任され、全世界のイエズス会会員約13,000人を統括・指導しておられます。ニコラス総長は、スペイン出身で、上智大学神学部を卒業され、東京で1967年に司祭に叙階されました。その後、神学部で15年間教え、日本管区長も6年間務められました。

イエズス会は、カトリック教会で有数の男子修道会で、日本管区には244人の会員がおり、上智大学、聖三木図書館もその一部として活動しているわけです。ニコラス総長は先ごろ、就任後初めて上智大学に「ホーム・カミング」されました。その日は、あいにく雨でしたが、大学講堂に集まった学生に熱く語りかけられました。その後、住田管区長、高祖理事長、石澤学長らと懇談され、懐かしいひと時を過ごされました。【写真】左から、ニコラス総長、石澤学長、住田管区長、高祖理事長



「ゆるし」とは
聖三木図書館館長
宗 正孝

聖三木図書館友の会の会報「ゆるし」という命名は、当図書館の命名の由来である聖パウロ三木の最期の言葉に因んでいます。彼は、一五九七年、豊臣秀吉の命により、長崎で殉教した日本二十六聖人の一人であり、十字架の上での臨終に際し、「国王（秀吉）とこの処刑にかかわった全ての者をゆるす」と語ったと、伝えられています。

福音書の中でも、イエス・キリストは十字架にかけられた二人の盗賊をゆるし、自らを十字架にかけた人々に対して、「父よ、彼らをおゆるしください。自分が何をしているのか知らないのです。」と言われました。

イエスの根本的な使命は、罪や病氣や迫害などの中にいて苦しむ人間に、ゆるしといやし、解放と自由をもたらすことでした（「ゆるし」と「解放」は聖書では同じ言葉が使われています）。自分自身をゆるす、この世界を分かち合って生きる全てのものをゆるすことは、全てに愛を与え、全てをありのままに受け入れることでもあります。しかし、それは、人間が自分の力で完全にできることではありません。ただ十字架の上で、「父よ、彼らをおゆるしください」と祈られたイエスの霊の力をいただいで、私たちにできるという

希望がもたらされます。ゆるすということは、人を傷つける行為そのものを良しとすることでもなく、相手が間違っているという自分の自信をまげて、相手に同調することでもないはず。自分を傷つけた人をゆるすことは、相手には責任がないと見なすことでもなく、出来事やその事実をなかつたこととして忘れることでもありません。ゆるすという行為は、苦痛に満ちた過去をいやし、今の瞬間を生きていることができるという、自分自身の解放と自由につながっているものでしょう。

ゆるしと愛とは深くかかわっています。繁栄が続ける現代に、人間はあらゆることを知り得る存在だと考えているかもしれませんが、しかし、目に見えるものも、目に見えないものも含めて、この宇宙にある生命そのものの根源である愛については、多くの人たちは、ほとんど知らないかもしれませんし、学ぶべき多くのものがあるように思えます。昔の知恵ある人が伝えたことや、現代のすぐれた人々の知恵の宝がこの図書館にもあるといえるでしょう。聖三木図書館は、このように神のゆるしと解放のメッセージを、聖書やキリスト教文学、芸術などを通して伝えることができるように、皆様の心の豊かさの泉ともなり、人間関係のしがらみを癒すオアシスともなることを願っています。

利用者からの声
特許事務所職員 松川 未央さん

「事務所から近い図書館はないかと“四ツ谷、キリスト教、図書館”とインターネットで検索したら、聖三木図書館をヒットしました。目の前にあったのでびっくりしたし、うれしかった」。ほとんど毎日のように聖三木図書館を利用する松川未央さんは言う。千代田区二番町に事務所がある松川さんは、ランチもそこそこに図書館にやって来る。スタッフとはすぐ知り合いになり、いつも笑顔で対応してくれるのでホッとすると。住んでいる町田市の図書館は、勤務時間の関係で休日にしか行けないが「これは、自分の図書館みたい」。友人からもうらやましがられている。

そして、キリスト教関係なら文学、美術どんなジャンルの本でも読みたいという知識欲旺盛な松川さんには、「読んでみたいと思った新刊書が、すぐ書架に並んでいる」のがうれしいそうだ。速読が得意な松川さんは「一回五冊まで、三週間」という貸し出し条件には十分納得している。

しかし、「立ち読み風」に書架の間を巡って本を探すときに、本の内容と本の分類番号の関係が分かり難く、松川さんでもうまく探せないことがあるのが悩み。それと、松川さんは「隠れ家的な図書館」と言うけれど、「初めて訪れる人には、どこから入ったらいいのか、少し分かりづらいかも」と気遣っていた。

カウンターのつづき

△定期的に来られる利用者の〇〇さん。しばらく見かけないけれど、どうされたのだろうと思っっていると、入院されていて返却が遅れるとの電話あり。どうぞおだいじに。

△「この本はとても面白かった」と言われると、私も読みたくてうずうずします。

△返却される本を手にして、こんな本もあつたんだと新たな発見。

△列福式にあわせて作った英国のニューマン枢機卿紹介コーナーが好評。

△W・ジョンストン神父様が帰天され、著書についての質問が多いためコーナーを作った。

△電車を乗り継いで遠くからこられる△△さんが、今日もずつしり5冊借りて行かれた。

△カウンターを飾るペーパークラフトの作者は小学校の先生Kさん。新作の『森のきのこ』、なごみます。

お知らせ

*今年もクリスマス関連図書を特別コーナーに集めました。待降節の説教・黙想はもとより、クリスマス起源・百科事典・文化史・小説・絵本・サンタクロースについて・クリスマス・ソング・料理・お菓子・手作りグッズ等々、楽しい聖三木のクリスマスワールドです。

*十二月三日から長期貸出をしています。【返却は、二〇一一年一月十一日(火)】



年に一度の蔵書点検。隅から隅までくまなくチェック。

近頃、聖三木図書館でよく読まれている本

2010年10月

マルガリータ
神父燦燦
アッシジの聖フランチェスコ
神父と頭蓋骨
テレーズを愛した人々
マザー・テレサは生きている
愛ある生き方
どう、生きたらよいのか
自分の始末
今、日本でカトリックであることとは？
路上からの復活
生きるためのひとこと
二十一世紀キリスト教読本
通訳ダニエル・シュタイン
自由人イエス
ヨハネ福音書のイエス

村木 嵐 著
カトリック新聞社 編
ジャック・ルゴフ 著
アミール・D・アクゼル 著
伊従 信子 著
片柳 弘史 著
ヨゼフ・ピタウ 著
森 一弘 著
曾野 綾子 著
光延 一郎 編
木崎 さと子 著
晴佐久 昌英 著
川村 信三 著
ウリツカヤ 著
クリスチャン・デュコック 著
小林 稔 著

文藝春秋
教友社
岩波書店
早川書房
女子パウロ会
教友社
海竜社
教友社
扶桑社
サンパウロ
女子パウロ会
女子パウロ会
教友社
新潮社
ドン・ボスコ社
岩波書店



会報誌「ゆるし」の
発刊にあたり
聖三木図書館友の会会長
荒谷 幸二郎

イェズス会聖三木図書館は、開設以来丁度三年目を迎えることになりました。会員総数も一六五〇名となり、来館者も年々増えて

聖三木図書館から

『聖三木図書館友の会』

入会・更新(継続)手続きのお願い

聖三木図書館は会員制の図書館として、会員の皆さまからの会費と寄付金によつて運営を行っています。昨年二〇〇九年度には、新しく四二三冊を蔵書として購入し、延べ四四一八人の会員に八六六三冊を貸出しました。今後引き続き、聖三木図書館に相応しい分野の書籍・文献資料の充実を図り、会員の皆さまに喜んでご利用いただけるよう努めて参ります。皆さまのご来館とご協力をお願い致します。

◎年会費 一般三〇〇〇円、学生一〇〇〇円、賛助会員一〇〇〇円

◎新しく入会をご希望の方は、入会申込書を図書館受付にご提出いただく時に、ご本人の氏名・年齢・住所、学生証明書などの確認書類をご提示ください。

◎更新(継続)をご希望の方は、年会費のお支払いをお願い致します。

◎年会費の支払い手続きを忘れないために、銀行口座、ゆうちょ口座からの自動払込み制度をご利用いただけます。利用申込書を図書館受付へご提出ください。

参りました。三年目を迎えるに当たり、さらに充実した図書館にするには何をなすべきかという観点から理事会で検討した結果、先ず年二回(十二月三日・七月三十一日)の会報誌「ゆるし」を会員の皆様が発行することにより、情報の提供並びにご意見をいただく場として図書館と会員の皆様方にさらに緊密になればと思っております。

友の会としては、今後も会員の拡大を図るとともに、会員の皆様方のマイ・ライブラリーとしてより多く活用していただけるよう、できる限りの要望を取り上げ、一層充実した内容のある図書館にしていきたいと思っております。

これからも会員の皆様方のご協力を心よりお願いいたします。



【特別寄稿】
遠藤周作と私

遠藤 順子

上智大学の中に聖三木図書館があったころ、主人は、何かの作品を書くための資料を探しに、一時期は、よく通っていたようでした。私自身は、一度くらいしか伺った記憶はないんです。「お前なんかには分からない」と思っていたのでしようか、私に資料探しを手伝わせるといったことはありませんでした。

それと、以前お友達から「遠藤作品の第一の愛読者であり評論家ではないか？」と言われたことがあります。が、ほとんどの文学作品は、主人が亡くなってから読ませてもらいました。ただ、主人が書いた新聞小説は、主人より早く起きている私が読んでいいことになっていました。

図書館の話から少し離れますけれど、私が六十九歳のとき、主人は亡くなりました（一九九六年）。息を引き取る十分ぐらい前に意識が戻り、「心温かな病院運動」と「日本人の心に届くキリスト」と「死は終わりではない」と「三つを「しっかりとやってくれ」と「遺言みたいにはっきりと言いました。私はあちら（天国）へ行って「三つの宿題」は、このようにやりました」と主人に報告するつもりですが、「何だ？何もやっていないじゃないか」と叱られるかもしれません。

：。 仏教でもインド、中国、日本でそれぞれに発展している。キリスト教も日本に「土着」するには少し変わる必要があるのではないかと、主人は考えていたようでした。「父なるキリストだけではなく、母なるキリスト」と言う考えもあっていいのでは」などと考えて

いたようでした。私も、日本に合ったキリスト教というものがあると思うのです。井上洋治神父（東京教区）と主人はとても親しくしていました。二人はたまたま、昭和二十五年に戦後最初のフランス政府留学生として渡仏し、それ以来、「日本人の心に届くキリスト」を考え続ける仲でした。私は、これからは教会もいい意味で変わっていくと思えます。

多くの皆様に読んでいただいている主人の作品に『沈黙』があります。長崎のキリシタンについてのものですが、主人が実際長崎に行ったのは、本が発刊される三年ばかり前の昭和三十九年に息子を連れて行った時が最初でした。それから、何度長崎に行ったらか分かりません。お陰様で、多くの方と親しくしていただいています。

そして、そのころからの地元の方々の発案で、長崎市外海の角力灘を見下ろす高台に『遠藤周作文学館』を建てることができました。主人がとても気に入った場所に、夢にも考えていなかったものができて、望外の喜びでした。私は、『沈黙』にふさわしい場所だと思ひ、感謝しております。

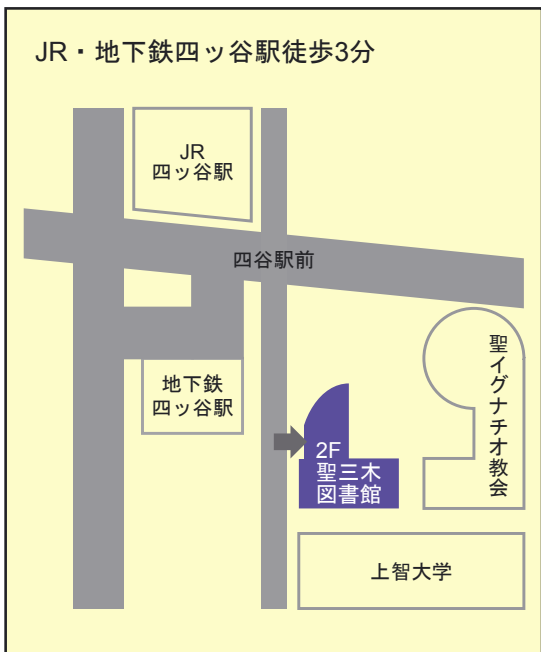
九月二十九日が主人の命日で、亡くなってから十五年になります。今年も東京・竹橋の如水会館で『周作忌』を開いてくださいました。遠い長崎からも参加された方々が多く、お陰様で、とても心温まる会になりました。これも『沈黙』、『キリストの誕生』、『侍』、『深い河』などの「本」が取り結んでくれた縁だと思ひ、ほんとうに有り難く思っています。（談）



ネモフィラは、北米カリフォルニア原産の一年草で、花の語源は、ギリシャ語の「ネモス=小森」と「フィレオ=愛する」が組み合わさっている。その花の青い色、愛らしい花弁から『赤ちゃんの青い瞳=Baby Blue Eyes』といわれる。花言葉『可憐』の他にも、『私は、ゆるす(赦す・許す)』がある。当友の会報の「題字=ゆるし」にふさわしいので、友の会のシンボル・フラワーに決めた。

ネモフィラの花は、茨城県ひたちなか市馬渡にある「国営ひたち海浜公園」の一角の「見晴らしの丘」35,000平方メートルを500万本で埋め尽くす（写真）。開花時期は、4月下旬から5月中旬。淡青に覆われた緩やかな丘陵は、それは美しく、今年も開花期間中に約30万人の入園者が楽しんだ。来る初夏が、待ち遠しいほど。

【遠藤 順子氏】一九二七年東京生まれ。慶応大学仏文科卒。芥川賞作家となつたばかりの遠藤周作氏と一九五五年結婚。現在は、母と胎児の命を守るNPO法人「円プロイオ基金センター」理事長などとして活動。著書には『夫の宿題』、『夫・遠藤周作を語る』など多数。



イエズス会聖三木図書館
〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1 岐部ホール内
Tel. 03-3262-0364 URL: http://www.jesuits.or.jp/~j_seimikibun/